

高倉城跡

所在地 福島県双葉郡広野町大字上浅見川字切通ほか
福島県埋蔵文化財包蔵地台帳 54180022

広野町の上浅見川字切通・字虻木地区と折木字高倉地区にまたがって、なだらかな円錐形をした高倉山(標高約122.5m)があります。この高倉山を中心に、中世の館が築かれていました。この館は、地名を取って「高倉城跡」という遺跡名が付けられています。

15世紀ころの福島県浜通りには、岩城氏・岩崎氏・榊原氏・標葉氏・相馬氏などの有力な勢力があり、たびたび争いが起きていましたが、次第に岩城氏と相馬氏の勢力が強くなりました。文明6年(1474)に岩城氏が榊原氏を滅ぼし、戦いで功績のあった猪狩氏が榊原城(木戸山田館)の城主となります。しかし、天文3年(1534)に榊原城が相馬氏に攻められて落城すると、猪狩氏は高倉城に移ります。その後、元龜元年(1570)に岩城氏が榊原城を奪い返しますが、高倉城も岩城氏の重要な館として残っていたと考えられます。

教育委員会では、平成元年度に高倉山の中を歩いて調べ、曲輪・土塁・石垣・堀切などの遺構が残っていることを確認し、平成5年度と同6年度には、館の中心部と考えられる曲輪で発掘調査を行いました。発掘調査では多くの遺構・遺物が見つかりましたが、高倉城が使われていた具体的な年代まではわかりませんでした。

高倉城跡は、重要な遺跡であるため、昭和51年に町の史跡に指定されました。



東の方角から見上げた高倉城跡

高倉城跡と東禅寺館跡の縄張図

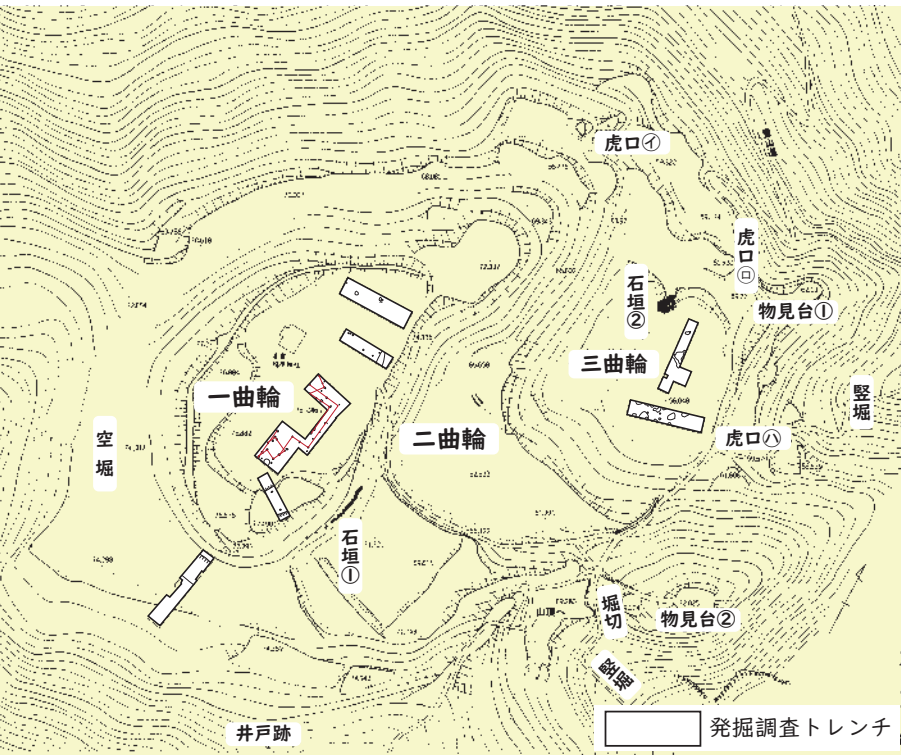
縄張図(なわばりず)とは、館跡の曲輪や様々な遺構の配置をあらわした図のことです。この図は平成元年度に調査したのですが、山林の中にはまだ見つかっていない遺構もあると考えられます。



高倉城の中心部は、高倉山北側の中腹にある高倉稻荷神社の周辺にあたり、広い曲輪が土塁や石垣で守られています。高倉城が築かれたころは、広野町周辺は岩城氏の勢力範囲でしたが、すぐ北の檜葉町周辺まで相馬氏の勢力が迫っていました。山の北側に主要な曲輪を配置したのは、北側からの攻撃に備えるためと考えられます。

主峰(一番高い部分)から四方に伸びる尾根には、周囲を見張るための櫓や物見台があったと考えられ、今でも敵の侵入を防ぐための堀切・土塁などの痕跡が残っています。このような防御施設や曲輪は、東側の東禅寺館まで続いており、高倉城と東禅寺館が一体となって、「防衛ライン」を作っていたと考えられます。

- 館(たて): 防御施設を備えた豪族のすまい。その場所全体をあらわすこともある。
- 曲輪(くるわ): 尾根や斜面を平らに造成した場所。
- 土塁(どるい): 土を盛り上げて築いた土手状の高まり。
- 堀切(ほりきり): 尾根筋を切る堀。敵が尾根づたいに攻めて来るのを防ぐ。
- 土堀(たてぼり): 等高線に直交する長い堀。敵が横に移動するのを防ぐ。
- 空堀(からぼり): 水が入っていない堀。
- 小口・虎口(こぐち): 館の重要な出入り口。一気に攻め込まれないような形にしている。
- 櫓(やぐら)・物見台(ものみだい): 周囲を見張るための施設。



◎高倉城の中心部の遺構
発掘調査で、多くの柱の穴や、空堀(深さ5m)のあとが見つかりました。周辺には、石垣や物見台と考えられる高まりも残っています。



◎高倉城の石垣(石垣①)(平成7年1月撮影)

高倉城と周辺の主な館跡



◎高倉城から見た広野町の風景 高倉山の展望台から東を見ると、広野町の中心部から太平洋まで見わたすことができます。東禅寺館跡も、高倉城跡から尾根でつながっていることがわかります。



◎双葉郡南部の主な館跡

※福島県教育委員会(1988)『福島県の中世城館跡』より

広野町には、高倉城跡のほかに東禅寺館跡・折木館跡などの館跡が知られています。周辺の市町村にも多くの館跡がありますが、ほとんどが山林のため、館跡の内容まではわかっていません。

15世紀ころの双葉郡の地域は、南の岩城氏と北の相馬氏という強い勢力に挟まれ、たびたび戦いがあったと伝えられています。やがて、岩城氏は戦国大名となり、富岡町あたりから茨城県高萩市あたりまでを支配しました。

岩城氏の居館は、いわき市好間町の大館城にありました。

- 奥付 -

ひろの未来館展示解説3「高倉城跡」

発行日 2024年3月1日

発行 広野町教育委員会 〒979-0402 福島県広野町大字下北迫字苗代替 35 TEL 0240-27-4166

編集 ひろの未来館 〒979-0403 福島県広野町大字下浅見川字築地 73 番地 1 TEL 0240-27-2277